

センター月だより

〒 507 0034 多治見市豊岡町 55 ヤマカまなびパーク4F TEL 0572- 23 - 3455 FAX 0572- 26 - 8813

指導日誌より

= 土岐地区 =

駅の階段に男子高校生一人が座っていたので“こんばんは”とあいさつすると、“こんばんは”と返ってきました。(2/1 泉 9)

三洋堂で中学生、高校生、有職少年に声かけ。駅で高校生ら40人程に声かけ。寒い日でしたが、元気のいいあいさつを返してくれる子が多くいた。(2/7 泉 8)

駅前で17才の有職少年がタバコを吸っていたので注意。その後はいろいろ話をしてくれた。バイクの無免許運転で退学となり、通信制高校を受検すること。素直な少年であった。(2/8 特 A)

寒い朝だったが、自転車に乗って元気にあいさつをする姿が気持ちよかった。小学生は、バスから降りる低学年の子も元気で、皆いつもよりあいさつの声が大きかった。(2/14 鶴里 4)

寒い日でしたが、皆元気なあいさつが返ってきた。(2/14 曾木 5)

今日はどこへ行っても子どもたちの姿は見かけませんでした。児童館では、「来ても5時までには保護者の方が迎えに来てくださいますよ。」とか、公民館

では、「勉強に来る子が2・3日来ていました。」と、子どもたちの様子を聞くことができました。(2/21 駄知 6)

= 多治見地区 =

公民館にて、ひとりで学習していた女子生徒に声をかけた。(2/14 小泉 5)

巡回していると、自転車の男性が下校中の女子高生の列の一人の腕に接触し、そのまま立ち去りました。歩道帯でのルール違反に怒りを感じ、高校生に声かけすると、ケガがないとのことでホッとしました。(2/14 南姫 9)

晴天で夕方子どもたちの遊ぶ姿がよく見られた。喜多緑地の山かげの空き地でバドミントンをしている子どもたちには、5時過ぎたら帰るように声かけした。(2/15 池田 6)

中学校が懇談会で授業が早く終わったので、小学校近くの通学路で、小学生の他に中学生にも声かけができた。(2/15 市之倉 7)

徐々に寒さが和らいできたようで、下校する子どもたちも元気に帰宅の途についているようだ。返ってくるあいさつも大きな声で感心した。(2/16 脇之

◆◆◆ 2月 声かけ活動の結果 ◆◆◆

| | 多治見地区 | 瑞浪地区 | 土岐地区 | 合計 |
|--------|-------|------|------|-----|
| 指導人数 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| 声かけ人数 | 458 | 67 | 306 | 831 |
| 指導員参加者 | 63 | 24 | 30 | 117 |

島 12)

小学校がインフルエンザで早帰りだったため、中学校と高校を回った。みんな元気なあいさつがあり良かった。(2/21 養正 1)

根本交流センターでは5時過ぎに一般児童は帰宅していた。習い事などに参加する子どもたちや保護者にあいさつ、声かけする。(2/22 根本 10)

今回も2コースに分かれて巡回した。子どもたちの返事も良く明るかった。歩道でキックスケートをしている子がいたので注意した。(2/25 北栄 1)

そろばん教室が急に休みになったようで、ドリルをしながら親の迎えを待つ小学生に声かけした。(2/27 精華 2)

= 瑞浪地区 =

自転車を下校途中の男子高校生に気をつけて帰るように声かけ。安全走行を心がけていた様子でひとまず安堵。零下の冷気の中、ご苦労様。(2/2 稲津 F)

寒い朝だったが、「元気なあいさつ」がお互いに来たのでとても良かった。(2/7 釜戸 G)

夜、出歩いている学生はいなくて、帰りのバスから降りてきた学生3人に会い、あいさつしたぐらいです。来年度は何か、他の方法での活動を考えていきたい。(2/10 陶 E)

下校途中の小中学生、よくあいさつ出来る子が多くなっている。H3年4月に中学校3校が統合されるので、今から各中学校が協力して交流会を開いてスムーズな統合を図るために活動されている。素晴らしい。(2/20 日吉 I)

お詫びして訂正します

3/1発行した「センターだよりNo.58」の5ページ下から8行目に誤りがありました。

(岐阜県東濃振興局) (岐阜県東濃県事務所)

陛下の象徴的行為

ベトナムを訪問された天皇、皇后両陛下は3月2日、ハノイで、「残留日本兵」のベトナム人妻や家族と対面されました。

ベトナムでは、終戦時に約8万人いた日本軍兵士のうちの約600人が帰還せず、フランスの再統治に抵抗する「ベトナム独立同盟」に協力し、ベトナム人兵士の指導や自らも戦闘に加わったということです。多くはベトナム人女性と家族を持ちましたが、1954年以降、東西冷戦を背景に旧日本兵は日本へ送還され、帯同が認められなかった家族と引き裂かれました。

朝日新聞は両陛下と家族との対面を次のように報じています。

「コンニチハ」。元残留日本兵の妻グエン・ティ・スアンさん(93)は両陛下に日本語であいさつした。「体がとても弱っていますが、初めて両陛下が訪問して下さったので頑張っここまで来ました。天皇陛下は腰をかがめて耳を傾け、「いろいろご苦労もあつたでしょう」と話した。

スアンさんは夫との間に4人の子をもった。だが1954年、夫はひとりで日本に帰国。スアンさんは農業や売り子をして働き、子どもを育てた。

皇后さまは涙ながらに話すスアンさんの前にしゃがみ込み、ずっと手を握って話を聞いた。「苦労していた日々のことを新聞で読みました」と言い、歩み寄って小さな体を抱きしめた。

今回、陛下は「やはり平和が大事ですね」と繰り返し述べられたそうです。昨年8月の「おことば」で示された天皇の「象徴的行為」(具体的には、戦争や天変地異で亡くなった人々を鎮魂し、苦しみの中にあるその家族や被災者の傍に寄り添うこと)を誠実に努めておられます。

スアンさんたちのことも今回の対面がなければ広く知られることはなかったでしょう。陛下の「象徴的行為」の対象が日本人だけにとどまらないことも示されました。

<センターから> 新年度を控えて

卒業式も終わり、寒さも少しはゆるんできました。卒業した若者たちだけでなく、春休みに入れば子どもたちは、新しい学年を迎えて期待と不安に満ちた「ワクワク! ドキドキ!」といった複雑な心境でしょう。子どもたちが事故や事件に巻き込まれることなく、無事に新しい生活、新しい学年にステップアップしていってくれるように願うばかりです。

春先から6月頃までは、子どもたちが新しい環境に戸惑いがちな時期です。こんな時こそ、まわりの大人がきちんと見守っていかねばなりません。声かけをよろしくお願いします。